

鋼構造架設設計施工指針【2012 年版】

正誤表

2013 年 6 月 16 日

頁	行 (図表番号)	誤	正
29	表 4.3.9 SM490Y SM520 SMA490W の行から下す べて	$290\,000\ (t/b)^2$ (全8カ所)	$29\,000\ (t/b)^2$
39	上から 1 行目	$\nu = 1.35$	$\nu = 1.36$
40	下から 11 行目	$\nu = 1.35$	$\nu = 1.36$
40	下から 7 行目	σ_c	τ
45	下から 9 行目	$\nu = 1.35$	$\nu = 1.36$
45	4.4.31 式	$M_u = 1.0 - 0.412(\lambda_m - 0.2)M_y$	$M_u = \{1.0 - 0.412(\lambda_m - 0.2)\} M_y$
88	表 5.4.10 トルシア形ボ ルトの不合格 処置の欄	回転量不足	回転量の不足
176	図 A2.1	図中に文字化け	左の引出し ∇ : G.L. 軌道の直下 線路中心
177	図 A2.2	「仮橋脚 A」も①の範囲	「仮橋脚 A,B」も①の範囲
179	上から 10 行目	$k_{h0} = 2.5$	$k_{h0} = 0.25$
180	下から 1 行目	$(P_o + EQ + U)/1.3 =$ $117 + 55.2 + 23.3 / 1.3$ $= 150\text{kN}$	$(P_o + EQ + U)/1.2 =$ $117 + 55.2 + 23.3 / 1.2$ $= 163\text{kN}$
181	上から 1 行目	照査水平荷重 (H_o)	地震荷重 (EQ)
181	上から 3 行目		“(図 A3.1.3 参照)”を追記
181	下から 6 行目	161×10^3 23.7	163×10^3 24.0
181	下から 2 行目	$EQ/1.3 = 39.0/1.3 = 30.0\text{kN}$	$EQ/1.2 = 39.0/1.2 = 32.5\text{kN}$
182	上から 9 行目	$30.0 \times 10^3 / 127 \times 10^2 = 2.36\text{kN}$	$32.5 \times 10^3 / 127 \times 10^2 = 2.56\text{kN}$
182	上から 13 行目	$39.0 + 7.00 / 1.3$ 67.2kN	$39.0 + 7.00 / 1.2$ 72.7kN
182	上から 18 行目	$67.2 \times 10^3 / 7.6 \times 10^2 = 88.4\text{kN}$	$72.7 \times 10^3 / 7.6 \times 10^2 = 95.7\text{kN}$

182	上から 19 行目		“(図 A3.1.4 参照)”を追記
182	下から 6 行目	162×2	163×2
182	下から 5 行目	104	105
182	下から 4 行目	161	163
182	図 A3.1.5	162kN	163kN
182	図 A3.1.5	(表題) 図 A3.1.5	(表題) 図 A.3.1.4
183	上から 7 行目	125×10^3	126×10^3
183	上から 8 行目	162×10^3 29.8	163×10^3 30.2
183	上から 14 行目	図 A3.1.6	図 A3.1.5
183	図 A3.1.6	(表題) 図 A3.1.6	(表題) 図 A.3.1.5
186	上から 10 行目	図 A3.1.7	図 A3.1.6
186	図 A3.1.7	(表題) 図 A3.1.7	(表題) 図 A.3.1.6
186	上から 11 行目	4 箇所を有効部分とする. 有効部分の性能は,	4 箇所を有効部分とする. 有効部分の性能は, (「有効部分の性能は」を削除)
186	下から 4 行目	$A=4.0\text{m}^2 \times 4$ 力所	$A=2.0\text{m}^2 \times 4$ 箇所
186	下から 1 行目	$A \times 4$ 137kN/m^2	$A \times 2$ 275kN/m^2 注) 支持力の照査は, 鉛直荷重と転倒モーメントによる押し込み力の合計に対して, 押し込み側の支持力を照査する. したがって, 敷鉄板の面積は片側とする.
187	上から 13 行目	$A \times 4$ 2.0×4 169kN/m^2	$A \times 2$ 2.0×2 338kN/m^2
188	上から 12 行目	4.0×4 $0.012\text{m} = 12\text{mm}$	2.0×4 $0.024\text{m} = 24\text{mm}$
188	上から 15 行目	図 A3.1.8	図 A3.1.7
188	図 A3.1.8	(表題) 図 A3.1.8	(表題) 図 A.3.1.7
190	上から 7 行目	Σ が大きすぎ	Σ を他のものとあわせる (他数箇所)

			あり)
191	上から 3 行目	図 A3.1.9	図 A3.1.8
191	図 A3.1.9	(表題) 図 A3.1.9	(表題) 図 A.3.1.8
194	下から 15 行目	サイドキャリヤブロック センターキャリヤブロック	サイドキャリヤブロック センターキャリヤブロック
196	下から 1 行目	$-122 \times 1.3 = -158.6 \text{N/mm}^2$	$-122 \times 1.2 = -146.4 \text{N/mm}^2$
197	上から 14 行目	$122 \times 1.3 = 158.6 \text{N/mm}^2$	$122 \times 1.2 = 146.4 \text{N/mm}^2$
199	上から 4 行目	Σ が大きすぎ	Σ を他のものとあわせる
199	図 13.3.3		添付図参照
219	下から 1 行目	1.35	1.36
222	下から 4 行目	1.35	1.36
223	上から 14 行目	1.35	1.36
229	下から 13 行目	キャリヤ	キャリヤ
230	上から 3 行目	キャリヤブロック	キャリヤブロック
233	下から 3 行目	段ゆ取り金具	段取り金具
234	上から 18 行目	斜吊り調整時	斜吊調整時
242	表 A4.1.4	許容応力度の割増し係数 1.3 架設時常時換算 CASE1 1 611 CASE2 3 778	許容応力度の割増し係数 1.2 架設時常時換算 CASE1 1 745 CASE2 4 093
246	下から 6 行目	$P_o/1.0$	$P_o/1.0 =$
246	下から 7 行目	$(P_o + W) / 1.1$	$(P_o + W) / 1.1 =$
246	下から 8 行目	$(P_o + EQ) / 1.3$ $19\,559 + 3\,008 / 1.3 = 17\,359 \text{kN}$	$(P_o + EQ) / 1.2 =$ $19\,559 + 3\,008 / 1.2 = 18\,806 \text{kN}$
272	上から 3 行目	キャリヤブロック (上部)	キャリヤブロック (上部)
272	図 A5.10	キャリヤブロックの引き寄せ	キャリヤブロックの引き寄せ

2014 年 11 月 19 日

39	上から 1 行目	$\nu = 1.35$	$\nu = 1.36$
40	下から 11 行目	$\nu = 1.35$	$\nu = 1.36$
40	下から 7 行	σ_c	τ
219	下から 11 行目	τ_u	F_τ
219	下から 9 行目	F	F_τ
219	下から 9 行目	235	136
219	下から 9 行目	1.760	1.339
219	下から 8 行目	τ_{cr}	τ_u

219	下から 8 行目 (2 カ所)	τ_u	F_τ
219	下から 6 行目	τ_{cr}	τ_u
219	下から 6 行目	1.760	1.339
219	下から 6 行目	80.8	88.2
219	下から 4 行目	=	=をトル
219	下から 3 行目	{ }	{ }をトル
219	下から 2 行目	{ }	{ }をトル
219	下から 2 行目	80.8	88.2
219	下から 1 行目	1.35	1.36
222	上から 6 行目	τ_u	F_τ
222	上から 8 行目	F	F_τ
222	上から 8 行目	235	136
222	上から 8 行目	0.671	0.511
222	上から 9 行目	τ_{cr}	τ_u
222	上から 9 行目 (2 カ所)	τ_u	F_τ
222	下から 9 行目	τ_{cr}	τ_u
222	下から 9 行目	0.671	0.511
222	下から 9 行目	110.0	120.0
222	下から 7 行目	=	=をトル
222	下から 6 行目	{ }	{ }をトル
222	下から 5 行目	{ }	{ }をトル
222	下から 5 行目	110.0	120.0
222	下から 4 行目	1.50 > 1.35	1.48 > 1.36
223	上から 14 行	1.35	1.36
223	下から 5 行	110.0	120.0
223	下から 4 行	0.671 0.592 0.665	0.510 1.06 0.583
223	下から 2 行	0.901 0.920 0.295	0.910 0.930 0.299

28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄（1 段目）	175 $:\frac{b}{38.5f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{38.5f}$	175 $:\frac{b}{38.7f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{38.7f}$
28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄（3 段目）	230 $:\frac{b}{33.6f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{33.6f}$	230 $:\frac{b}{33.7f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{33.7f}$
28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄（4 段目）	220 $:\frac{b}{34.4f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{34.4f}$	220 $:\frac{b}{34.6f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{34.6f}$
28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄（5 段目）	260 $:\frac{b}{31.3f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{31.3f}$	260 $:\frac{b}{31.6f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{31.6f}$
28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄（6 段目）	245 $:\frac{b}{32.6f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{32.6f}$	245 $:\frac{b}{32.8f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{32.8f}$
28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄（7 段目）	240 $:\frac{b}{32.9f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{32.9f}$	240 $:\frac{b}{33.3f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{33.3f}$
28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄（8 段目）	320 $:\frac{b}{28.5f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{28.5f}$	320 $:\frac{b}{28.7f}\leq t$ 260,000 $(\frac{tf}{b})^2$ $:\frac{b}{80f}\leq t<\frac{b}{28.7f}$

28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄（9 段目）	305 $260,000\left(\frac{tf}{b}\right)^2$: $\frac{b}{29.2f} \leq t$: $\frac{b}{80f} \leq t < \frac{b}{29.2f}$	305 $260,000\left(\frac{tf}{b}\right)^2$: $\frac{b}{29.3f} \leq t$: $\frac{b}{80f} \leq t < \frac{b}{29.3f}$
28	表 4.3.8 局部座屈に対する許容応力度の欄(10 段目)	300 $260,000\left(\frac{tf}{b}\right)^2$: $\frac{b}{29.4f} \leq t$: $\frac{b}{80f} \leq t < \frac{b}{29.4f}$	300 $260,000\left(\frac{tf}{b}\right)^2$: $\frac{b}{29.6f} \leq t$: $\frac{b}{80f} \leq t < \frac{b}{29.6f}$
29	表 4.3.9 局部座屈に対する許容応力度の欄(1段目)	175 $29,000\left(\frac{t}{b}\right)^2$: $\frac{b}{12.9} \leq t$: $\frac{b}{16} \leq t < \frac{b}{12.9}$	175 $29,000\left(\frac{t}{b}\right)^2$: $\frac{b}{12.8} \leq t$: $\frac{b}{16} \leq t < \frac{b}{12.8}$
29	表 4.3.9 局部座屈に対する許容応力度の欄(2段目)	155 $29,000\left(\frac{t}{b}\right)^2$: $\frac{b}{13.7} \leq t$: $\frac{b}{16} \leq t < \frac{b}{13.7}$	155 $29,000\left(\frac{t}{b}\right)^2$: $\frac{b}{13.6} \leq t$: $\frac{b}{16} \leq t < \frac{b}{13.6}$
29	表 4.3.9 局部座屈に対する許容応力度の欄(9段目)	305 $29,000\left(\frac{t}{b}\right)^2$: $\frac{b}{9.8} \leq t$: $\frac{b}{16} \leq t < \frac{b}{9.8}$	305 $29,000\left(\frac{t}{b}\right)^2$: $\frac{b}{9.7} \leq t$: $\frac{b}{16} \leq t < \frac{b}{9.7}$

2018 年 11 月 28 日

39	式 4.4.5	$\sigma_{p1} = \sigma_{p0} \left(1 - \frac{d_1}{d}\right) = \frac{P}{ct_f} \left(1 - \frac{d_1}{d}\right)$	$\sigma_{p1} = \sigma_{p0} \left(1 - \frac{d_1}{d}\right) = \frac{P}{\underline{ct_w}} \left(1 - \frac{d_1}{d}\right)$
39	式 4.4.6	$\sigma_{p2} = \sigma_{p0} \left(1 - \frac{d_2}{d}\right) = \frac{P}{ct_f} \left(1 - \frac{d_2}{d}\right)$	$\sigma_{p2} = \sigma_{p0} \left(1 - \frac{d_2}{d}\right) = \frac{P}{\underline{ct_w}} \left(1 - \frac{d_2}{d}\right)$
39	下から 6 行目	tf : フランジ厚	$\underline{tw}$: <u>腹板の板厚</u>

t_w

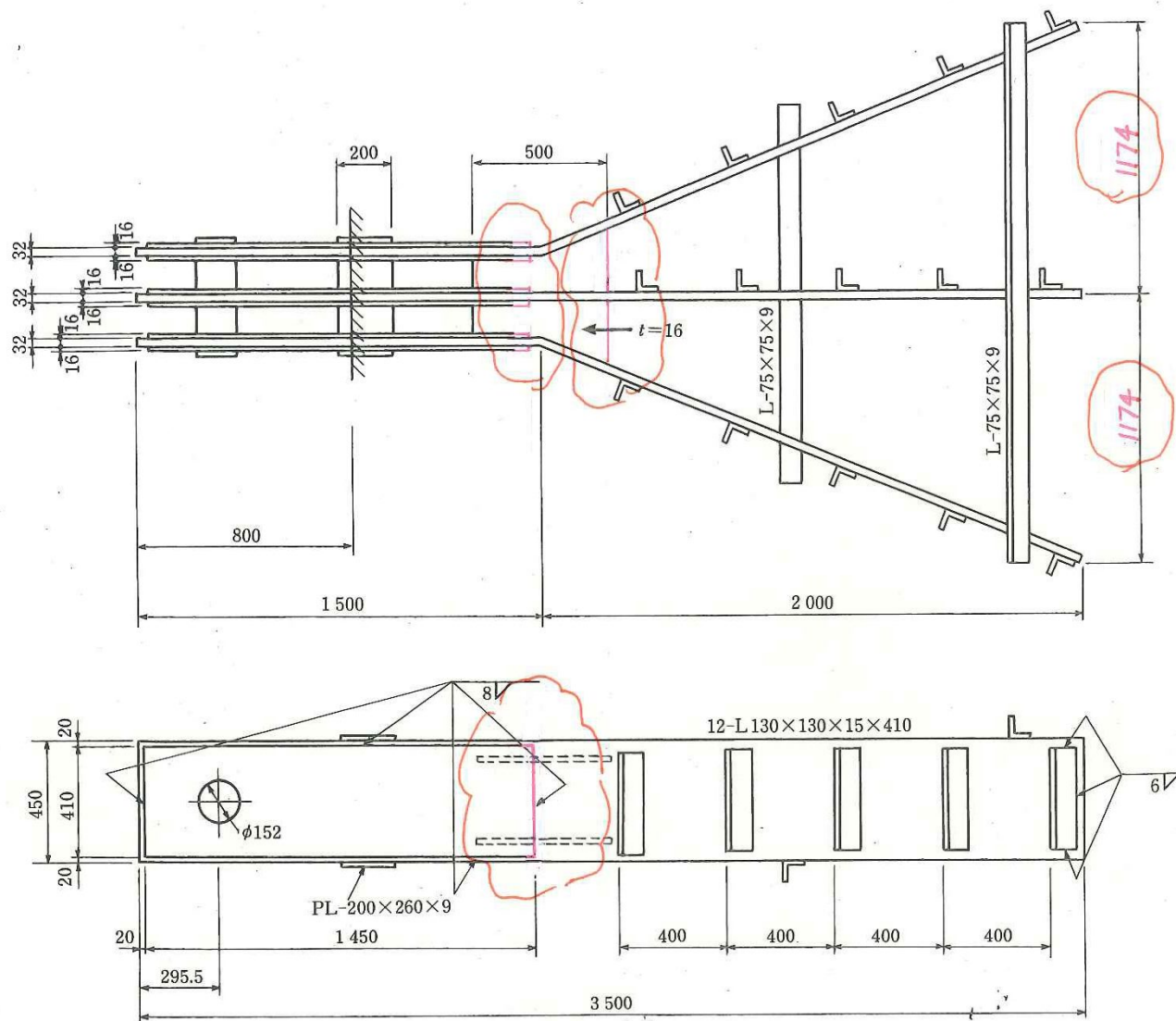


図 A3.3.3 アンカーフレーム構造